

連載 私の町はどんな町④

上尾市（上尾宿）

大宮宿を過ぎると、中山道はJR高崎線と国道十七号線の間を北上します。宮原駅を過ぎると田園風景に武蔵野を忍ばせるものがあり、一五〇〇年代創建といわれる「加茂神社」の森が見えてきます。さいたま市宮原町の加茂神社は、英泉の「木曾街道六十九次」には上尾宿として描かれています。入口の鳥居に「文政三年再建」と刻銘されています、老樹が見事に繁り、社殿に覆いかぶさっていますが、社殿はお粗末なものです。

大宮市と上尾市との境界辺りの木の下に、不動尊像が彫られた高さ一米位の古い石塔があります。左側面に「是より秋葉へ壱里十二町、ひら方へ壱里八町、川越へ三里、寛政十二年寅年十二月建之」と陰刻され、中山道から川越へ通じる一つであったと思われるます。

当時の上尾宿は特産物がな

今シリーズは皆さんの住む町の歴史を取り上げる新シリーズです。中山道を北へたどりませう。

く財政上の苦肉の策として、旅籠に飯盛女を置きその脂粉を売り物に外貨を獲得するという宿命を背負っていたのでしよう。総戸数一八二軒のうち四一軒、即ち四軒に一軒が旅籠で多くの遊女を抱え、特に川越藩が町中に遊女を置くことを禁止していたので、三里の道程も厭わず上尾宿の飯盛女の下まで通っていたそうです。

上尾駅の北西に「真言宗智山派遍照院」という宿の臨時本陣を勤めた広大な敷地を有する古刹があります。その墓域の中央に「廓室妙顔信女」と刻まれた自然石があり、俗に「遊女お玉の墓」と呼ばれ、二十五年薄命を謳われたお玉の生涯が誌るされています。肉体を蝕まれた私娼の多くは迫害酷使され草鞋のように捨てられていました。その遊女たちの供養のためか、お玉の墓は常にお花と香煙は絶

えないとのことでした。

上尾駅近くの宮本町に「氷川嶽神社」があり、その境内に「上尾郷二賢堂碑記」の石碑が建っています。一七八八年に宿内旅籠の主人「山崎武平次」が郷土の子弟教育の塾として、信州の僧侶「雲室」に懇願し、「聚正義塾」という学舎を建てて塾内に菅原道真と朱熹を祀って「二賢堂」と称し、林大学が献額しました。

当時武士の藩校はありませんが、庶民の手で設立した私塾は珍しくこの漢学塾の果たした行跡は上尾市の誇りとして残っています。雲室のあと武平次

が自ら塾頭となり一八六〇年まで続きました。

前出の遍照院に「山崎武平次夫妻の墓」があり、墓石の側面に

「名月や ひとつに帰る人 心」

と陰刻されていて、先に他界した妻の許に旅立つ武平次の辞世の句とされています。

脂粉の香りと勉強の気質をもった上尾宿を過ぎると「武州紅花」で活気あふれていた桶川宿へと入ります。

(パシフィックパレス)

武蔵浦和 小島次郎



二賢堂跡碑（氷川嶽神社内）

ISO9001・14001に裏づけされた高品質な
工事と誠実なアフターケア環境にやさしい
リニューアルを提供します。

本社 川崎市川崎区大川町8-1

TEL 044-366-4807(営業部)

FAX 044-366-4810

URL <http://www.sinyo.com>



ビル・マンション等のリニューアルはシンヨーにお任せ下さい。

シンヨー株式会社